

情報提供等への取組みに関するガイドラインに基づく情報提供
(平成 28 年度)

目次

- (1) 学校の概要、目標及び計画
 - ・校長名
 - ・所在地、連絡先
 - ・学校の沿革
 - ・学校の教育理念、教育方針
- (2) 工業専門課程の教育
 - ・カリキュラム、設置学科
 - ・進級卒業の要件等
 - ・取得可能ライセンス
 - ・卒業者数、卒業後の進路
 - ・中途退学者
- (3) 教職員
- (4) キャリア教育・実践的職業教育
 - ・キャリア教育
 - ・就職支援
- (5) 様々な教育活動・教育環境
 - ・学校行事
 - ・学校施設
- (6) 学生の生活支援
- (7) 学生納付金・修学支援
 - ・学納金
 - ・学納金納入期限について
 - ・奨学金と教育ローン
- (8) 学校の財務
- (9) 学校評価

(1) 学校の概要、目標及び計画

校長名	岩坂典子
所在地	兵庫県尼崎市西難波町4丁目6番26号
連絡先	T E L (06)6488-5221 F A X(06)6488-5226
学校の沿革	平成元年3月 学校法人兵庫科学技術学園 兵庫科学技術専門学校認可 平成元年9月 自動車整備士1種養成施設指定 平成19年4月 阪神自動車航空鉄道専門学校に校名変更
学校の教育理念、教育方針	(教育理念) 日々研鑽を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが充実した豊かな人生の実現を目指す。 (教育方針) 自主・創造の精神に溢れ、逆境を跳ね返す心身ともにたくましい学生を育てる。

(2) 工業専門課程の教育

設置学科	自動車整備工学科		
入学者数	64名(平成28年4月)	在 student 数	99名(平成28年3月)
カリキュラム時数	総授業時数 2,345 時間	専門士称号付与	1,700 時間以上
進級卒業の要件等	進級・卒業時に欠時数 30 時間以内(補講完了者)、筆記試験 60 点以上の者を進級卒業認定		
取得可能ライセンス	2級ガソリン自動車整備士 中古自動車査定士 2級ジーゼル自動車整備士 損害保険募集人資格 2級二輪自動車整備士 ビジネス能力検定3級 ガス溶接技能講習終了資格 アーク溶接特別教育修了資格 危険物取扱者(丙種・乙種第4類) 低圧電気取扱特別教育終了資格		
卒業者数	42名(平成27年度)		
卒業後の進路 主な就職先	自動車販売ディーラー、大型トラックバス、建設機械レンタル、輸入車等販売ディーラー、就職率 100%		
退学率 中途退学の主な理由 中途退学防止の取組	中途退学者 11名 退学率 10.0% 家庭の事情、体調不良、進路変更、金銭的事情 生活指導、学納金相談、カウンセリング等		

(3) 教職員

校長	教員		職員		合計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
1	7		7		15

(4) キャリア教育・実践的職業教育

キャリア教育	各企業求人票一斉掲示前に就職ガイダンスを実施、 業界や企業の研究の為各会社の企業セミナー等実施
実践的職業教育	進路指導室・総合企画室担当者は、各企業が求めている人材の把握 就職活動解禁に当たって随時応談

(5) 様々な教育活動・教育環境

学校行事	HPに記載 (http://www.hits.ac.jp/)あり			
学校施設	構造：鉄骨陸屋根造			
校舎	校地面積	1,190 m ²	校舎敷地	1,000 m ²
	校舎延床面積 (内実習場)	6,919 m ² (1,349 m ²)		

(6) 学生の生活支援

生活支援	個々の学生の個別面談実施 保護者懇談会実施（緊密な連携協力）
------	-----------------------------------

(7) 学生納付金・修学支援

学納金

入学金	150,000
-----	---------

学費

	授業料	実習費	設備費	合計
1年次学費	500,000	350,000	200,000	1,050,000
2年次学費	500,000	350,000	200,000	1,050,000

学納金納入期限について

1次納入期限	第2次納入期限
入学金納入	授業料等
合格通知から10日以内	合格通知から1か月以内

奨学金・教育ローン

奨学金・教育ローン	日本学生支援機構 国の教育ローン（日本政策金融公庫） 金融機関の教育ローン 滝川財団奨学金制度
-----------	--

(8) 学校の財務

事業活動収支計算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単位：円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	決 算
		学生生徒等納付金	166,843,334
		手数料	2,236,600
		寄付金	1,884,600
		経常費等補助金	2,417,180
		付随事業収入	1,725,900
		雑収入	1,310,802
		教育活動収入計	176,418,416
	事業活動支出の部	科 目	決 算
人件費	100,489,331		
経費	132,508,288		
教育活動支出計	232,997,619		
教育活動収支差額		△ 56,579,203	
前年度繰越収支差額		△ 520,907,178	
翌年度繰越収支差額		△ 934,059,506	

貸借対照表

平成29年3月31日 現在

資 産 の 部

(単位 円)

科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 資 産	1,101,710,469	3,792,505,131	△ 2,690,794,662
有形固定資産	1,101,660,469	3,792,143,931	△ 2,690,483,462
その他の固定資産	50,000	361,200	△ 311,200
流 動 資 産	36,459,778	72,288,891	△ 35,829,113
資 産 の 部 合 計	1,138,170,247	3,864,794,022	△ 2,726,623,775
負 債 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	778,000,000	587,040,000	190,960,000
流 動 負 債	227,573,723	228,485,901	59,087,822
負 債 の 部 合 計	1,005,573,723	815,525,901	190,047,822
基 本 金 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
第1号基本金	1,066,656,000	3,570,175,299	△ 2,503,519,299
基 本 金 の 部 合 計	1,066,656,000	3,570,175,299	△ 2,503,519,299
収 支 差 額 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
翌年度繰越支出超過額	△ 934,059,476	△ 520,907,178	△ 413,152,298
収支差額の部合計	△ 934,059,476	△ 520,907,178	△ 413,152,298
負債の部、基本金の部及び 収支差額の部合計	1,138,170,247	3,864,794,022	△ 2,726,623,775

(9) 学校評価

平成29年7月31日

平成28年度 学校関係者評価報告書

学校法人 兵庫科学技術学園
阪神自動車航空鉄道専門学校
自己点検評価委員会
学校関係者評価委員会

学校法人兵庫科学技術学園 阪神自動車航空鉄道専門学校 学校関係者評価委員会は、平成28年度自己点検・自己評価報告書に基づき、学校関係者評価を行いました。

このことにより以下の通りご報告いたします。

1、学校関係者評価委員（順不同）

氏名	所属
木下 莊一	一般社団法人兵庫県自動車整備振興会 尼崎支部 支部長
阿田 佳樹	日産プリンス兵庫販売株式会社 サービス部 次長
岩川 啓次郎	尼崎市西難波第八福祉協会・尼崎中央防犯協会 会長
由比 進平	兵庫スバル株式会社 当校 26期卒業生
山口 伸太郎	株式会社スズキ自販兵庫 当校 26期卒業生
西村 薫	在校生保護者（西村祐輝 自動車整備工学科2年生）
重井 葉子	在校生保護者（重井大介 自動車整備工学科2年生）

2、学校関係者評価委員会議事録

項目	評価・意見
(1) 教育理念・目的・育成人材像等	・教育理念・目的・育成人材像について、これらを基本としてより具体的な（たとえば1級自動車整備士資格取得）目標設定を継続して検討中であるとして了承される。
(2) 学校運営	・大きく組織が変化し、学校運営の仕組みを細かく構築しているところ。4月より新校舎に移転することで大規模になるので、組織だった動きにすべく取り組んでいる。 ・学校の運営は一部改善がみられる。 ・教員に対する研修制度が整備され、一部目標設定や、情報システムが整備されていないところがあるとした意見があった。
(3) 教育活動	・教育目標、育成人材像は、職業実践専門の観点から、その学科に対応する業界のニーズは一致している。 ・より専門性の向上を図るため教員の教育プログラムは、指定の学科科目であり国家試験を経るための業界の基本レベルに達している。 ・カリキュラム内容、編成等、各科目の指導内容、方法について適正に実施されており、資格取得に必要な教育内容になっている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・学生による授業評価について、学期末毎に、アンケートを実施し、集計し、授業担当者に報告し、保存している。 ・学科授業だけでなく、社会人としてのマナー教育を就職前以外にも取り入れ、人格形成教育に関しても努力が認められる。 ・学生毎のレベル差が大きく、どの生徒に焦点を当てて授業を行うかが課題。
(4) 教育成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上、についてはここ数年 100%を達成している。今後は、第一希望合格率を上げていくことが目標。 ・前々年度からOBの現状の把握のために、OB会（同窓会）等早急に整備し、追跡調査を実施するとしていたが、未達成なので、整備を急ぐ。
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の就職・進学指導に関する体制については説明会を開き、企業セミナーを開催し、それぞれが自分に合った企業を見つけ、個別相談で企業概要などの資料を見て説明し、納得の上、本人の希望にかなった企業を選んでいる。 ・学生相談室について、表立った窓口は存在しないが、教員とのつながりが大きく相談できる状態になっている。教員全員が個別学生の情報共有ができるように、教員ミーティングの時間を作って取り組んでいる。今後、相談室の開設については検討する。 ・留学生相談室について、専用の相談窓口はないが、日本語担当教員が3名在籍しフォローしているため、手厚いと認識。そのため「留学生に対する学生相談体制は整備され、有効に機能しているか」の評価を「3」に上げてよいとの意見で一致。
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・新校舎では、現校舎では確保できなかった、整備の現場ですぐ役立つ、洗車・オイル交換・点検整備が出来る設備を確保している。
(7) 学生の受入募集	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年学生募集については色々魅力ある学校として、工夫を凝らし案内書等作成している。 ・前年同様、まだまだ改善すべき課題がある。
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年入学者数減少傾向にあり、財務体質改善ができなかったが、昨年度より本格的に財務を見直し、財務体質の健全化計画を遂行中である。
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令等の遵守については、国、地方の監督官庁により指導が徹底しており十分守られている。 ・個人情報なども、個人情報保護法に則った処理をしている。 ・自己点検・自己評価の結果公開は関係者に正確に伝わっている。
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会との連携を図り、地域に密着した学校として存続していく。 ・地域に密着した学校として近隣の清掃等積極的にボランティア活動をしなければならない。 ・熊本地震の義援金として約2万円を寄付した。

阪神自動車航空鉄道専門学校
学校自己評価報告書
(平成28年度)

平成29年7月31日作成

目次（評価項目一覧）

1. 教育理念・目的・育成人材像等

- ・ 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか
- ・ 学校の特色はなにか⇒
- ・ 学校の将来構想を抱いているか

2. 学校運営

- ・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか
- ・ 事業計画は定められているか
- ・ 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか
- ・ 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか
- ・ 意思決定システムは確立されているか
- ・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

3. 教育活動

- ・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
- ・ 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか
- ・ カリキュラムは体系的に編成されているか
- ・ 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか
- ・ 授業評価の実施・評価体制はあるか
- ・ 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
- ・ 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか
- ・ 資格取得の指導体制はあるか

4. 教育成果

- ・ 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか
- ・ 資格取得率の向上が図られているか
- ・ 退学率の低減が図られているか
- ・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

5. 学生支援

- ・ 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか
- ・ 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか
- ・ 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか
- ・ 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか
- ・ 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか
- ・ 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか
- ・ 保護者と適切に連携しているか
- ・ 卒業生への支援体制はあるか

6. 教育環境

- ・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- ・ 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- ・ 防災に対する体制は整備されているか

7. 学生の募集と受け入れ

- ・ 学生募集活動は、適正に行われているか
- ・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
- ・ 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか
- ・ 学納金は妥当なものとなっているか

8. 財務

- ・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- ・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
- ・ 財務について会計監査が適正におこなわれているか
- ・ 財務情報公開の体制整備はできているか

9. 法令等の遵守

- ・ 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
- ・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
- ・ 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか
- ・ 自己点検・自己評価結果の公開はしているか

10. 社会貢献・地域貢献

- ・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか
- ・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

1. 教育理念・目的・育成人材像等

(1) 自己採点

5. 完璧 4. かなり進んでいる 3. 普通 2. やや足りない 1. ほとんど進んでいない NA. 当てはまらない

評価項目	評価
学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか	3
理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	3
理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか	3
理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	2
学校の特色として挙げられるものがあるか	4
学校の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	3

(2) 現状

- ・当校では以下の教育理念、教育目標を掲げ、人材育成を行っている。

【教育理念】

日々の研鑽を通じ、社会からの期待に応え一人ひとりが充実した豊かな人生の実現を目指す。

【目的】

創造性や先見性があり、地域・業界から信頼される学校を目指す。

【育成人材像】

自主・創造の精神に溢れ、逆境を跳ね返す心身ともにたくましい学生の育成。

- ・専門学校の場合、時代の変化に伴い、その変化に対応するために理念目的について適宜見直しが必要である。
- ・学校の特色としては、優秀な自動車整備士を育成し、自動車業界で貢献することである。
- ・国土交通省の認可学科であるため、卒業時には2級自動車整備士資格の受験資格が取得でき、実技試験も免除される。

(3) 課題と改善策

- ・今後の課題として、1級自動車整備士資格取得施設を目指す。
- ・理念・目的・育成人材像につき教職員を含め、浸透させる。

2. 学校運営

(1) 自己採点

5. 完璧 4. かなり進んでいる 3. 普通 2. やや足りない 1. ほとんど進んでいない NA. 当てはまらない

評価項目	評価
学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか	3
学校運営方針はきちんと教職員に明示され、伝わっているか	3
学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか	3
学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか	2
学校は事業計画に沿って運営されているか	2
運営組織図はあるか	5
運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか	3
組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか	3
学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	3
人事考課制度は整備されているか	2
昇進・昇格制度は整備されているか	2
賃金制度は整備されているか	3
採用制度は整備されているか	3
教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	3
意思決定システムは確立されているか	3
意思決定プロセスのポイントとなる仕組み(会議等)が制度化されているか	3
意思決定の階層・権限等は明確か、学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	3
業務効率化を図る情報システム化がなされているか	3

(2) 現状

- ・理事会、教職員会議、朝礼を実施している。
- ・理事長がビジョン、使命などを策定し、理事会で決定している。
- ・全ての教職員に、ほぼ運営方針は伝わっている。
- ・事業計画を今後毎年策定。
- ・職務と責任については、各教職員が把握している。
- ・明確な基準は、国土交通省の規定による有資格者を採用している。
- ・必要な教職員数を把握し、退職者が出る場合は事前採用を行い一定数を保っている。
- ・理事長の意思決定は、理事会と教職員会議を通じ浸透されている。
- ・毎月理事会による仕組みが制度化されている。
- ・意思決定の階層、権限は明確化されている。

(3) 課題と改善策

- ・不備があった規程については整備し、他の規程についても見直しを行っている。
- ・業務内容の役割分担を明確化する。
- ・各自の責任については、再度確認が必要である。
- ・実技教員の技術講習、セミナー参加を実施する。

- ・人事考課制度の計画実施に向け現在構築中である。
- ・教育研修実施後、研修内容を他の教員とも共有する取り組みを行っている。
- ・業界レベルに十分対応できる、専門性を持ち合わせている。
- ・採用時、現状の専門性を把握し、評価している。
- ・学校独自での実施若しくは業界団体主催の実技セミナーに参加している。
- ・教員のインストラクションスキルは把握しているが、評価できていない。
- ・各学期末考査を行い、成績評価を行っている。
- ・資格取得に必要な教育内容になっている。
- ・授業アンケートをもとにカリキュラムを練り直し、新たな授業展開、個別指導等、具体的な問題点の改善に努めている。
- ・本校独自のカリキュラムの設定として、各ディーラー、メーカーの協力を得て、実体験研修を増やしている。

3. 教育活動

(1) 自己採点

5. 完璧 4. かなり進んでいる 3. 普通 2. やや足りない 1. ほとんど進んでいない NA. 当てはまらない

評価項目	評価
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	5
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか	4
学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	4
カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか	3
カリキュラムを編成する体制は明確になっているか	3
カリキュラムを定期的に見直しているか	3
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	4
各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	3
各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	3
学生による授業評価を実施しているか	5
授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか	3
学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格等）を備えた教員を確保しているか	4
教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	4
教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	4
教員の専門性を向上させる研修を行っているか	4
教員の教授力(インストラクションスキル)を適宜把握し、評価しているか	3
教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	3
教員間(非常勤講師も含めて)で適切に協業しているか	4
非常勤講師間で適切に協業しているか	NA
非常勤講師の採用基準は明確か	NA
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	5
目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか	5
目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	5

(2) 現状

- ・教育目標、育成人材像は業界のニーズに合致している。毎年就職先の企業に、業界のニーズをヒアリングし、合致するようにしている。
- ・学科のカリキュラムは、毎年確認研鑽しており、目標達成に十分な内容であり、体系的に編成されている。
- ・業界に求められる人材に育成すべく業界団体の意見をヒアリングし、反映している。
- ・教育プログラムは、国土交通省に定められた規程科目として位置づけられている。

- ・目的、授業内容の分かるシラバスを作成し、到達レベルの目標を設定している。
- ・授業内見学を実施し、学科、学校として教員の適否につき把握している。ただし、評価に至っていない。
- ・国土交通省の規定により、教員を確保している。
 - ・業界レベルに十分対応できる、専門性を持ち合わせている。
 - ・採用時、現状の専門性を把握し、評価している。
 - ・学校独自での実施もしくは業界団体主催の実技セミナーに参加している。
 - ・教員のインストラクションスキルは把握しているが、評価できていない。
 - ・年に1回学内で教員研修を実施。それ以外に学外の研修を受講し、スキルを向上している。
 - ・期末考査を行い、成績評価を行っている。
 - ・資格取得に必要な教育内容になっている。

(3) 課題と改善策

- ・今後キャリア教育を行う上で職員のスキルアップも課題である。学校としてのキャリアプログラムを構築する必要がある。
- ・学期末毎に授業アンケートを実施し、問題点は改善するように校長による教員面談を実施している。
- ・学校長、学科長による教員の授業見学を実施。教員の適否についての評価を行う必要がある。
- ・技術力向上のための研修や教員研修の参加が必要である。
- ・技術研修のさらなる実施が必要である。
- ・人事考課と共に、教授力を評価対象に検討する。
- ・国土交通省の基準だけでなく、授業スキルの高さを判断材料にする為の授業スキルの標準化が必要である。

4. 教育成果

(1) 自己採点

5. 完璧4. かなり進んでいる3. 普通2. やや足りない1. ほとんど進んでいないNA. 当てはまらない

評価項目	評価
就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	5
就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	4
資格取得率の向上が図られているか	4
資格取得者数とその推移に関する情報を確に把握しているか	4
退学率の低減が図られているか	3
入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	3
卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	2
卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか	2

(2) 現状

- ・就職率 100%達成している。
- ・就職成果とその推移に関する情報を適切に把握している。
- ・非常に高い確率で資格取得している。
- ・国家資格、検定合格者数は正確に把握している。
- ・校長が直接指導にあたり、担任に退学率を5%に抑えるように指導している。
- ・入退学者数の推移は把握している。

(3) 課題と改善策

- ・今後は第一志望就職率100%を目指す。
- ・就職ガイダンスを元就職担当者に指導していただき、指導者の育成にも努めている。
- ・就職活動前より、ビジネスマナー研修を講師に依頼し、就職活動の時だけではなく社会人に向けての取り組みを行っている。
- ・卒業生の社会的活躍の把握が必要。
- ・就職先の追跡調査の実施が必要である。
- ・卒業生について十分に把握していないため、OB会や他の方策を通じ、把握方法を整備中である。
- ・OB相談室の創設を検討している。
- ・就職先を短期で退職する卒業生が存在するので、卒業後(5年)の退職者にも進路指導部で就職斡旋する旨の呼びかけをする。

5. 学生支援

(1) 自己採点

5. 完璧4. かなり進んでいる3. 普通2. やや足りない1. ほとんど進んでいないNA. 当てはまらない

評価項目	評価
学生の就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
就職に関する説明会を実施しているか	4
就職に関する学生個別相談を実施しているか	5
就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか	5
学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
学生相談室を開設しているか	2
学生からの相談に応じる専用カウンセラーがいるか	2
留学生に対する学生相談体制は整備され、有効に機能しているか	3
学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	3
奨学金制度が整備され、有効に機能しているか	3
学費の分納制度等、学生を経済的に支援する制度が整備され、有効に機能しているか	3
定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか	3
学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	2
学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか	2
スポーツ等のクラブ活動、ボランティア活動その他、課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	2
遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	2
同窓会が組織化され、活発な活動をしているか	2
卒業生をフォローアップする体制が整備され、有効に機能しているか	2

(2) 現状

- ・学生への就職・進学指導に関する掲示、PCでの閲覧が可能である。
- ・企業担当者による校内企業説明会を毎年実施している。
- ・個別相談を実施している。
- ・担任が学生相談に応じている。
- ・保護者懇談会を毎年秋に実施している。
- ・就職の具体的活動に関する指導を実施している。
- ・学生カウンセラーとして、広報担当者が担当と違う部分の対応を実施し、相談窓口として機能している。また、女子学生の相談先としても活用されている。
- ・卒業生における相談窓口の機能も果たしている。
- ・留学生に関して、日本語教師のサポートを手厚くし、生活指導・相談を行っている。
- ・日本学生機構の第2種奨学金の利用が多い。ほぼ有効に機能している。
- ・学費は原則一括払いであるが、分納制度も併用している。特に奨学金が原資の場合柔軟に対応している。
- ・毎年健康診断を行っている。

- ・クラブ活動は行っていない。
- ・学生寮は設置していないが、遠隔地出身者のために、不動産業者の紹介を行っている。

(3) 課題と改善策

- ・教員間での連携を図り、学生相談に対応をしていく。
- ・学生の健康管理を担う組織体制の整備が必要。
- ・学生からの健康相談等に専門に応じる体制が不十分なので、体の面、心の面での支援体制が必要。
- ・特に留学生に関して、できる限り学校からの借家利用等を考慮し、安全面、経済面での支援が必要である。
- ・保護者の方にも学校に訪問していただく機会をつくり、保護者会について検討したい。
- ・同窓会の名簿を整理して、OB会リスト、総会等連携を深める必要がある。
- ・卒業生を対象とした求人について情報を提供する場がないので、今後提供する場を作っていきたい。

6. 教育環境

(1) 自己採点

5. 完璧4. かなり進んでいる3. 普通2. やや足りない1. ほとんど進んでいないNA. 当てはまらない

評価項目	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
施設・設備のメンテナンス体制が整備され、有効に機能しているか	3
施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	3
学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか	3
学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果を確認しているか	3
防災に対する体制は整備され、有効に機能しているか	3
災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか	3
実習時等の事故防止の体制は十分か	3
万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか	3
防災訓練を実施しているか	4

(2) 現状

- ・新校舎に移転し、旧校舎では確保できなかった、整備の現場で役立つ、洗車・オイル交換・点検整備が出来る設備を確保。学生数に対して、十分な設備を設置している。
- ・学外実習（インターンシップ研修）を企業と連携し実施。
- ・防災に対する体制は整備され機能している。
- ・危険箇所の把握、点検、施錠をしている。
- ・自衛消防隊を組織、年1回防災訓練を行っている。
- ・実習時等の事故防止に努めている。
- ・災害についての保険に加入している。

(3) 課題と改善策

- ・南海トラフ地震防災規程の具体的な行動基準を定めた災害対応マニュアルを作成する必要がある。
- ・非常食や水、非常時に必要な備品について備蓄、備蓄倉庫を準備する必要がある。
- ・施設・設備については定期的に点検し、メンテナンスを行う必要がある。
- ・町内の避難場所に指定されることを目指す。

7. 学生の募集と受け入れ

(1) 自己採点

5. 完璧4. かなり進んでいる3. 普通2. やや足りない1. ほとんど進んでいないNA. 当てはまらない

評価項目	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか	4
志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか	4
募集定員を満たす募集活動となっているか	3
学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は正確に伝えられているか	3
卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか	3
入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3
入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	4
学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか	4
学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	4

(2) 現状

- ・資料請求者への資料送付、オープンキャンパス、入学説明会、高校訪問等により計画的に行っている。
- ・育成人材像を明示し、志願者、保護者の知りたい情報を掲載し、分かりやすく記載している。
- ・Eメール、インターネットからの問い合わせフォーム、電話での対応を行っている。
- ・資格取得率、就職率は正確に伝えられている。卒業生の活躍は全て把握できていないが、分かる範囲で伝えている。
- ・就職率や国家資格合格率など募集に貢献した実数を把握している。
- ・入学選考は、学内で定めた面接項目、基準に従って公平に行っている。
- ・出願者数、入学者数共に正確に数字を把握している。出願数、入学者数を毎年分析している。
- ・学納金は本校の教育内容において妥当である。
- ・毎年、学科毎の学納金の収支については正確に把握している。

(3) 課題と改善策

- ・同窓会活動を活発にし、卒業後の活躍を把握する必要がある。
- ・就職は好調であるが、散見される卒業生の利殖の実態調査実施の検討を行う必要がある。
- ・卒業生の活躍を十分に把握する必要がある、OB会の発足などの方法により、情報交換ができる場を作る必要がある。

8. 財務

(1) 自己採点

5. 完璧4. かなり進んでいる3. 普通2. やや足りない1. ほとんど進んでいないNA. 当てはまらない

評価項目	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか	3
年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか	3
予算は計画に従って妥当に執行されているか	3
財務について会計監査が適正におこなわれているか	3
会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか	3
私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか	3
私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか	3

(2) 現状

- ・ 入学者数の減少傾向があるので、増加に転ずる必要がある。
- ・ 予算案は妥当である。中期計画の策定ができている。
- ・ 事業計画に従って妥当に執行している。
- ・ 税理士による精査が随時適正に行われている。

(3) 課題と改善策

- ・ 募集活動の強化、設備の改修、コース増設による入学者の増大。
- ・ 借入金の繰り上げ返済。
- ・ 財務情報をホームページでも情報公開済。

9. 法令等の遵守

(1) 自己採点

5. 完璧4. かなり進んでいる3. 普通2. やや足りない1. ほとんど進んでいないNA. 当てはまらない

評価項目	評価
法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか	3
法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	3
志願者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	3
自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めているか	3
自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか	3
自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	3
自己点検・自己評価結果は公開しているか	3
自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか	3
自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	3

(2) 現状

- ・法令等の遵守については、適正な運営が行われている。
- ・法令、授業時間数、試験などについては教職員並びに学生に遵守するように啓発活動をしているが、学生においては不十分である。
- ・個人情報に関して教職員全員が、入学願書、資料請求などそれ以外の目的での使用はしていない。
- ・個人情報啓発活動を教職員と学生に実施しているが、学生への対応が完全ではない。
- ・自己点検・自己評価の実施を定期的継続的整備が必要である。

(3) 課題と改善策

- ・啓発活動は引き続き実施していく。
- ・定期的に自己評価につき確認することにより、改善意識につながっており、結果として自己点検評価のレベルアップにつながるため、今後も継続し、精度向上の実現に努めていきたい。

10. 社会貢献・地域貢献

(1) 自己採点

5. 完璧4. かなり進んでいる3. 普通2. やや足りない1. ほとんど進んでいないNA. 当てはまらない

評価項目	評価
広く教育機関、企業・団体、および地域との連携・交流を図っているか	3
学校の資源を活用し、生涯学習事業や附帯教育事業を行っているか	2
学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか	2
諸外国の学校などと連携し、留学生の相互の受け入れ、共同研究・開発を行っているか	4
重要な社会問題について、学生や教職員に対し啓蒙活動を行っているか	3
学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか	2
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2
学生のボランティア活動の状況を把握しているか	2

(2) 現状

- ・地域との連携・交流は不十分、企業や団体ともさらに積極的に連携・交流する必要がある。
- ・生涯学習事業や附帯教育事業を現在計画中。
- ・自主的にしているボランティア活動は把握できていない。
- ・毎年献血を実施している。

(3) 課題と改善策

- ・地域社会と連携・交流を図るため、学園祭を計画している。
- ・学校教育において、徳育授業の導入を検討中。
- ・グローバル人材を育成するために、外国の学校との相互受け入れを想定し、提携先を探す必要がある。